

## 「中国企業の製造原価計算について」

92306 陳恩

本論文は、中国における新しい概念である原価計算を元にして、中国企業の製造原価計算について論じたものである。

現代中国の経済体制改革のもとでは利益センター、原価センター思考が導入され、欧米型の責任会計と社会主義計画経済のノルマ管理が結びついた形で責任会計が展開されている。そして、会社、総工場においては利益センター出、工場や製造、営業部門では原価センターで、職場では物量管理センターという形が取られている。本論文は、まず現代中国の経済体制確立までを4過程に分け特徴づけ、40年近い歴史のある中国会計制度において大きな変化をもたらしたのは1985年に公布された「会計法」と「合資会計制度」であることを論じた。

企業原価の本質を製品原価と工程原価の2つに分けられるが、製造費用計算の性格性と合理性を確保するためには、費用限界を正確に区別しなければならない。製造費用は製品原価中に一定の比重を占め、これらは製品原価の総合原価項目を構成している。そして、製造費用計算の方法には4つ方法がある。すなわち、1.固定資産減価償却費用計算、2.計画制定に応じた基礎を越えた期間における計算、3.製造工場における消耗服務費用計算、4.その他の製造費用計算である。

原価費目と分配は、製造費用計算の科目に、生産工場は「製造費用」帳簿を設置する必要がある。製造費用の集計方法としては、減価償却費用、修理費、安価消耗品費用を集計する。そして多品種製品を製造する場合には、共同製造費用を集計し、そして分配することが必要であり、製造費用の分配には8方法がある。

製造含む部門費用の内容について論じ、その計算方法の2種類について解説した。被服部門費用の集計においては、各項目欄（原材料、給料、原価償却費）に対して、被服部門と製造部門の2階層帳簿設け、分配法の中の直接分配法、順位分配法、代数分配法

について論じた。

製造原価計算と変動原価計算の原価構成を比較し、この相違が間接費用の中の変動性と固定性に起因する。在庫品の価格計算および損益に対する影響の比較において、製造原価計算のほうは変動原価計算より価格が高くなり、販売量と製造量の関係により損益に影響が異なる。そこで製造原価計算と変動原価計算の両方法を採用すべきである。また材料費価格の変動と原価計算の対策について論じた。

製造原価計算と責任原価計算の有機的な結合により、新しい財務会計制度では企業製造原価褒美によって製品原価計算することにする。この規定は企業内部の経営の転換や、原価責任の中心や、原価管理の京かや原価の厳格な統制を行うために、きわめて有利な条件を提供する。製造原価に有効で強力な原価統制は、製品原価統制する企業の経済効果と利益の向上に役立つ。

中国原価計算の未来は、現代的な管理会計システムを定着し、普及させるために、原価管理と原価計算を協力に推し進める。今後起こり得る経済進歩とそれに対応するために原価計算制度は新しい展開がはじまると思われる。